

2012年1月6日

報道関係者各位

株式会社 ICS コンベンションデザイン

InterAqua O 2012

第3回国際水ソリューション総合展

2月15日(水)～17日(金) 東京ビッグサイト

Aqua Week - 国内外の水ビジネスと技術ソリューションに関わるプレーヤーが集う1週間。

株式会社 ICS コンベンションデザイン(東京都千代田区、代表者 浅井 純一)は、3 回目となる「InterAqua 2012 第3回国際水ソリューション総合展」を本年2月15日(水)から17日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催する。後援は(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、(社)日本水道協会、(社)日本水道工業団体連合会、下水道グローバルセンター(GCUS)、(財)日中経済協会、海外水循環システム協議会(GWRA)、水の安全保障戦略機構、日本液体清澄化技術工業会(LFPI)、日本脱塩協会(JDA)を予定。82企業・団体が出展を予定し、8千人の来場を見込む。

InterAqua は日本の優れた水処理技術を背景に水ビジネスの海外展開への関心が大きく高まる中、2008年に開催構想が浮上。2010年2月に第1回目が開催され、本年2月、第3回目の開催を迎える。この間、水ビジネスの海外展開の道筋や戦略の明確化とその進展とともに、アジアの水ビジネスのプラットフォームを目指すInterAquaの展示会としての性格も変容しつつある。

2010年の第1回目は、我が国の水関連企業が企業群として海外水事業に参入する一つのステージとして、展示会の有効性を探ることが開催の主要目的の一つであったが、第2回目となる昨年は、引き続き NEDO 研究プロジェクトの成果発表やチーム水・日本活動報告が行なわれると共に、企業系出展者についてはその数は倍増し、海外企業8社を含む「部材・部品・機器製造」、「装置設計・組立」分野の企業57社が出展。新技術・サービスの発表と商談のための国際展示会としての性格を強めることとなった。

一方、海外展開の主要マーケット国の明確化や公的諸機関・自治体などの支援強化を背景に、海外展示会等へのミッションの派遣と併せ、国内においては、重点国地域の要人・有識者の招聘や、それに併せた国内セミナー等の実施により、水ビジネスにおけるマッチングの機会を提供することが重要となっている。

こうした中、昨年は会期2日目に主催者であるICSコンベンションデザインと中国水網が、GWRAと日中経済協会の特別協力の下、「日中水ビジネスフォーラム」を共同開催した。中国側から中国水務投資有限公司など中国水事業会社のトップ、EPC、コンサルの代表など45人が訪日団を組織して参加、日本側約180人の参加者とのビジネスマッチングを含む交流を行った。この他にも、大競争時代に突入した世界の水処理膜をテーマに「JDA Forum 2011」や、「水の安全保障戦略機構シンポジウム」が開催された。

このように、InterAqua においては、展示会がR&Dと技術ソリューションの性格を強める一方、水ビジネスのグローバル展開や日本の優れた水処理キーテクノロジーなど戦略性の高いテーマの国際会議からワークショップまで同時開催の会議系イベントが重要性を増しつつあり、展示会と会議系イベントが車の両輪のような役割を果たしている。

今回は、会期中NEDO主催の世界の水ビジネスに関するシンポジウム、日本水道新聞社による東日本大震災・復興シンポジウム、APDA/JDA 先端膜国際会議、JDA ワークショップ、日中経済協会による日中水ビジネスフォーラム(計画中)などが予定されている。

こうした中、InterAqua 2012 を機に InterAqua が 開催される一週間を Aqua Week と称することとし、将来はさらに多くの国内外の水関連プレーヤーに対しそれぞれのテーマでの会議系イベントの開催を呼びかけ、展示会を機軸とした、さらにオープンな『日本発アジアにおける水ビジネスと情報のプラットフォーム』の実現を目指すとしている。

■ InterAqua 2012

【商談会として充実する水処理ソリューション技術の国際展示会】

本展の展示会構成は、「省水型・環境調和型水循環プロジェクト」の中間成果発表のためのNEDO パピリオンを中心に、隣接する海外水循環システム協議会(GWRA)ゾーンには東レ、日立製作所、日立プラントテクノロジー、明電舎、西島製作所が個社出展、さらに民間企業、関連団体、NPO、メディア等がブース展開する。本年の Aqua Lounge は出展者が震災・復興への取り組みを発表する場となる。

今回の特色は、海外を含む民間企業の出展がさらに増え 62 社となる一方、NPO が減少。関連団体の出展は国内から新たに下水道グローバルセンターが加わる。また海外からは APDA(Asia Pacific Desalination Association)がパピリオンを構え、オーストラリア(AWA)、中国(CDA)、韓国(KDA)など 3 カ国の会員協会が出展を予定しており国際化が進む。

【国内出展社の新たな顔ぶれ】

出展企業の新たな顔ぶれとして、伊藤忠商事グループ ITC グリーン&ウォーターは食品工場廃水・家畜し尿廃水など有機性廃水の浄化プラント(複合ラグーンシステム®)の出展と併せ、松江土建と共同で、松江土建が(独) 土木研究所と共同開発した閉鎖性水域の貧酸素改善に優れる水中型気液溶解装置(WEP システム)を出展する。

また、総合電解技術メーカーとして突出した海外展開を見せるクロリンエンジニアズは、水処理分野に於いて、オンサイト型次亜塩素酸ナトリウム発生装置をはじめ、オゾンガス・オゾン水発生装置等を提供している。今回、0.1%~12%の有効塩素濃度の発生可能なオンサイト型次亜塩素酸ナトリウム発生装置を中心に出展を行う。

アクアテクノシステム(自家水道システム)、アメロイド日本サービス(全自動スラリー脱水機)、ジョンソンスクリーンズジャパン(ウェッジワイヤースクリーン/応用製品)、トーア電子・ナゴヤ大島機械(オゾン発生装置/応用設備)、東洋アクアテック(水道インフラの二重化の提案)、日本電工(資源回収イオン交換塔/レンタル事業)、ワッティー(液面検知センサ)、Xylem Water System Japan (立型多段式ポンプ)なども初出展となる。

【海外で高まる InterAqua の認知、中国からは初の EPC・O&M 企業が出展】

海外企業は出展対象の展示会の選定を本部のマーケティング部門が主導で行う場合が多い。欧米企業の日本支社・営業拠点が、本部の意向を受けて出展を申し込んでくるケースも増えており、海外における InterAqua の認知度の高まりがうかがえる。

アジアからの直接出展は、台湾から浄水装置メーカーなど 3 社、中国から 1 社となっている。

中国の進民水務有限公司は中国 3 大食肉加工企業の1社である金鑼集団の傘下であり、分散型汚水処理、高濃度有機廃水処理等を手がける。昨年は InterAqua の日中ビジネスフォーラムへの参加者として来日した。今回は日本市場への参入と技術開発のパートナーリングが出展目的。アジアからの EPC・O&M を手掛ける企業の出展は同社が初となる。

また、APDA パビリオン内に出展する CDA(中国脱塩協会)は 10 数名の訪日団で来日予定であり、MIAC(中国膜工業協会)も 30 数名の訪日団を送り込んでくる。中国の今後の分離膜技術への取組や動向が注目される。

【日本の研究開発を牽引する NEDO プロジェクト】

NEDO が実施する「省水型・環境調和型水循環プロジェクト」は、我が国の水関連産業が強みを有する膜分離技術など革新的な要素技術開発と、これらの技術を活用した実用化の実証研究(モデル事業)からなる研究開発プロジェクトであり、現在各 8 案件となっている。延べ 24 の民間企業・研究機関・大学に事業委託されている。

NEDO パビリオンでは各案件の中間成果報告が展示されるほか、ミニシアターでは口演発表が行われる。素材、部材、装置、設備製造からエンジニアリング、管理、運営まで、今回も内外の幅広い分野からの来訪者が予想され、案件形成に波及することが期待される。

【震災復興コーナー】

出展企業が今回の震災被害をどのように受け入れ、どんなアクションを取ったのか、また、今後の水インフラや諸エネルギー問題についてどのように正対していくのか、それらの実績や将来ビジョンを示して発信することが、復旧・復興の貢献に繋がるとの考えから、会場内に『Aqua Lounge 特別企画《東日本大震災・水インフラ復興と次代への提案》』を特設し、出展企業へ参画を呼びかけている。発表形式はパネルとステージプレゼンテーション。

現在、安西メディカル、ウェルシィ、ジョンソンスクリーンズジャパン、ゼオライト、トーア電子など 10 社・団体が応募している。東洋アクアテックは、被災直後から復興までを見据えた水道バックアップとして小型造水機や地下水活用システムの提案をする予定。

■ Aqua Week

InterAqua を機軸とした併催会議によるネットワーキングと技術交流の1週間

InterAqua 2012 初日には3本の会議が集中する。NEDO による水ビジネスの国際シンポジウム、日本水道新聞による震災復興シンポジウム、JDA による最先端の海水逆浸透膜脱塩法技術に関するワークショップ。そして、2日目から3日目の午前にかけて APDA/JDA Joint Conference が日本で初めて開催される。また、展示会開催前日の 2 月 14 日(火)には、日中経済協会が Aqua Week の先陣を切って日中水ビジネスセミナーの都内での開催を計画している。この他にも、この時期を選んで水関連分野の会議系イベントの開催が計画されている。

— 本リリースに関するお問合せ先 —

InterAqua 事務局 (株式会社 ICS コンベンションデザイン内)

TEL:03-3219-3564 FAX:03-3219-3628 E-mail:interaqua@ics-inc.co.jp

〒101-8449 東京都千代田区猿楽町 1-5-18 千代田ビル

<http://www.interaqua.jp/>

Aqua Week – InterAqua 2012 同時開催会議

◎『東日本大震災・復興シンポジウム』

【日 時】 2月15日(水) 10:30-17:30

【会 場】 会議棟1階 レセプションホール A

【主 催】 日本水道新聞社/株)ICS コンベンションデザイン

【参加費】 5,000円(税込)

◆東日本大震災の被災地での切実な取組や体験談を通じて、発災からの1年を検証し、復興ロードのあるべき姿を思考しつつ、宿命的な地震国として水インフラの今後のあるべき姿と危機管理の重要性を科学的に情報発信していく機会とする。

◎『NEDO Water Solution Symposium 2012』

「世界の水ビジネスに関する動向と戦略」

【日 時】 2月15日(水) 13:30-17:00

【会 場】 会議棟6階 「606会議室」

【主 催】 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

【参加費】 無料 (日英同時通訳有)

◆世界の水ビジネスの動向、中東における水処理関連事業の展望、世界の先端企業の動向・戦略(MBR特集)、日本のファイナンス支援をテーマに国内外からの講師が発表する。パネルディスカッションでは「今後の水ビジネス戦略について」討論する。

◎『JDA Workshop 2012』 エンジニアリング特別講座

「世界最先端の大規模 RO 法脱塩プラントエンジニアリング」

【日 時】 2月15日(水) 13:00-17:30

【会 場】 会議棟6階 「609会議室」

【主 催】 日本脱塩協会 (JDA)

【参加費】 会員 50,000円、非会員 60,000円 (税込、日英同時通訳有)

◆ウォーター・グローブ・コンサルティング社(USA)のニコライ・ポウチコフ氏を講師に迎え、「逆浸透膜法脱塩システムー設計とコスト」、「運転維持管理ーDBO」、「脱塩プラント・ケーススタディ」などプラントエンジニア必須の専門ワークショップ。コーディネータは東レ株式会社水処理技術部水処理プロセス技術課長の谷口雅英氏。

◎『APDA /JDA Joint Conference 2012』

「21世紀の世界の水問題解決！～水処理膜技術のパラダイムシフトは必要か？～」

【日 時】 2月16日(木) 10:00-17:00、17日(金) 10:00-12:30

【会 場】 会議棟1階 「102会議室」

【主 催】 日本脱塩協会 (JDA) /Asia Pacific Desalination Association (APDA)

【参加費】 会員 30,000円、非会員 40,000円 (税込、日英同時通訳有)

◆1日目:基調講演「日本の水処理 R&D 国家プロジェクト」(栗原 優 APDA 会長)、講演:「革新膜技術:FO における最新開発状況」(シンガポール・ナヤン技術大学)、「革新膜技術と統合膜システム」(伊・カラブリア大学)、「先進膜技術と膜プロセスの動向」(米・カリフォルニア大学)、「下水道関連技術における最近の進展と科学的視点」(ソウル大学)、「中国における先進水処理膜の開発動向」(天津大学)、「環境と脱塩:大型プラントにおける取水と排水」(仏・デグレモン社)。

2日目:APDA 各国より自国の市場動向、海外展開の状況、研究開発の動向について報告。

詳細プログラムはこちらから <http://www.interaqua.jp>